

週日の説教

金 大烈 神父 2010年1月23日(土)

《聞く人の態度によって変わる言葉》

今日の福音(マルコ3・20-21)を読みますと、イエス様がどのような暮らしをされていたかがすぐ分かると思います。「一同は食事をする暇もないほどであった。」、「『あの男は気が変になっている』と言われた」という話を読むと、本当に昼も夜もないような生活をしていたことが分かります。また、イエス様はいつも使命を果たすために全力を尽くしていたことにも気づかされます。しかし、そのくらい一生懸命に仕事をしたのにもかかわらず、評判はいろいろでした。イエス様に癒されるために、命をかけてついて行こうとする人々もたくさんいました。けれども、反対にイエス様を殺そうとする人々もいました。そして、“変な人だ”と思った人もたくさんいました。

さあ、皆様は毎日み言葉を聞くことができます。たまには司祭の口を通して話される言葉も聞くことができます。イエス様がこのような生活をしていたことを考えたうえで、それらの言葉が皆様の胸の中で、どのような種になり、実を結べるよう頑張っているか、振り返ってみましょう。

いくら素晴らしい話でも、話しをする人の癖、言い方によって変わるかもしれません。しかし、聞く人の聞き方によっても、そのみ言葉に力があるかないかが、決まると思います。私たちは、ぼんやりみ言葉を聞いてしまうこともあります。しかし、集中して、一言でも自分のものにしようとする頑張りも必要ではないかと思います。

言葉というものは、聞く人がどのような態度で聞くかによって全然違う力を出していることを今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。

ありがとうございました。